学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	**インクルーシブ 教育**	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

宇治市

事業名

多様な学びの場創造事業

事業の経過・背景・課題

宇治市の特別支援学級の在籍者数、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を要する児童生徒数は増加傾向である。障害特性は多様化しており、様々な教育的ニーズへの対応、多様な場での学びを実現するための支援や対応が学校に求められている。

特別支援学級に在籍している児童生徒へのきめ細やかな支援体制の構築、通常の学級に在籍する支援を必要とする児童生徒の学習面および生活面での支援が課題となっている。

取組内容

交付実績額：　4,227　千円

・市内の小中学校３校をモデル校とし、専門性の高い関係機関（＝府立特別支援学校）・府教委との連携により、 特別支援教育の効果的な指導方法の向上、校内支援体制を構築

・モデル校に元教員で特別支援教育について専門性の高い インクルーシブサポーターを配置し、まずは特別支援学級に在籍している児童生徒へのきめ細やかな支援や指導、支援体制の構築等についての研究や、インクルーシブ教育の先進校を視察

・事業を通し、特別支援学級での指導力を高めることで、障害のある子どもが安心して地域の学校に通うことができる環境の整備を目指す

【実施スケジュール】
令和５年４月～：年間を通じて各校実践
定期的（月１回）：インクルサポーター会議
６月　：宇治市インクルーシブ教育システム研究協議会開催
令和６年３月　：プロジェクト会議開催

事業の成果・今後の展望等

児童生徒の実態把握を多角的な視点から行い、よりよい支援方法や支援の場の検討を行うとともに、インクルーシブ教育は、通常の学級も含めた学校全体で行うものだという教員の意識改革を研修等を通して行い、授業のユニバーサルデザイン化などの授業改善に取り組むことができた。

また、特別支援学級での授業形態を見直し、小集団での一斉授業を充実させることで、互いを知り認め合う関係づくりが進んだ。

今後はさらに市内小中学校の特別支援学級における指導力を高めることに加えて、令和７年に設置予定の乳幼児期教育・保育支援センター（仮）との連携強化による就学前からの連続性のある支援を行う。

問い合わせ先　宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

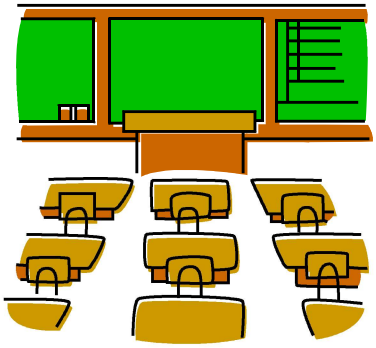
インクル便り

令和5年5月　日

小版
UD＆
合理的配慮

学期初めのあわただしい中、全クラスの授業を参観させていただき、ありがとうございました。
先生方が実践されていた授業の工夫（合理的配慮やユニバーサルデザインの視点）を紙面上でご紹介できればと思います。

座席の配慮



＊視力、聴力で気になる子
＊不安感の強い子
＊指示を聞き逃す子
＊刺激に引っ張られやすい子
} 前の方の座席

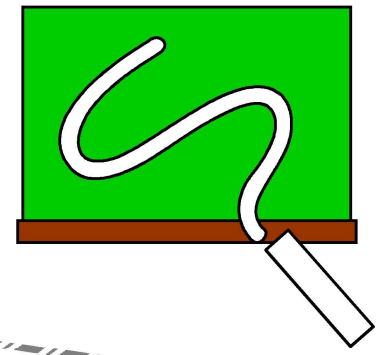
＊持ち物が散乱しやすい子 … 両端の列や一番後ろの座席

＊本人と相談して、一番落ち着ける座席

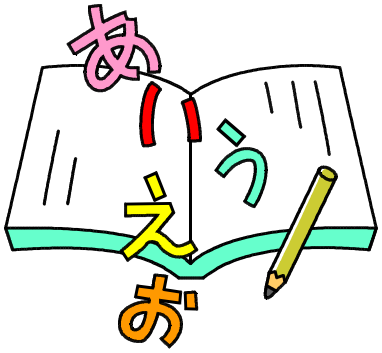
板書の配慮

＊教科書のページ・問題番号を板書
⇒指示を聞き逃しても黒板を見れば分かる！

＊児童の使っているノートのマス目を考慮した板書
⇒黒板と同じように書けばいい！



新出漢字・文字の指導



＊空書きで筆順指導　先生は対面で左手で裏文字を書く
普通バージョンとビッグサイズバージョン
＊よくある間違いの紹介　間違い探し
＊形の特徴や構成部分を言語化
＊覚えやすいエピソード
「牛に角はあるけど、午(うま)にない」
先生が筆順や形を間違って覚えていたという話

まだまだありますので、続きは次回に…

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

宇治市

事業名

学びのステップアップ事業

事業の経過・背景・課題

令和元年度から３ヵ年、小学校３年生への学力調査を実施し、授業改善を行った結果、学力の向上が見られた。令和５年度からは経年で学力の伸びを見るとともに、定着の弱い学習内容について、児童や保護者と確認し、調査結果と連携した教材に取り組むことで、個別最適な学びを実現する。

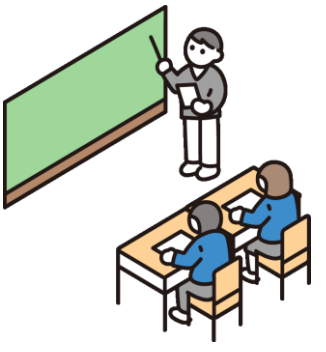
取組内容

交付実績額：　1,015　千円

・市内小学校２・３年生の全児童を対象に市独自の学力調査「宇治市統一学力調査（学びのステップアップ）」（国語・算数）を実施
・言語能力や認識力が高まる低学年期に実施することで、早期に学習でのつまずきを確認し、授業改善を行うなど、学力向上につなげる
・調査結果をＡＩドリルと連携して活用することで、個別指導や個に応じた課題に取り組むことができる

【実施スケジュール】

令和５年11月９日（木）　：教職員向け事前説明会において実施目的・内容等を確認
11月20日（月）～27日（月）：調査実施
令和６年１月19日（金）　：各校へ結果データ返却
１月30日（火）　：児童・保護者へ個人票返却
伸びと弱点の確認、新学年に向けた目標設定
２月16日（金）　：教職員向け事後説明会において、結果の見方や活用方法を確認し、授業改善等に活用。
※個々の結果をＡＩドリルと連携し、学校・家庭学習に取り組む



事業の成果・今後の展望等

言語能力や認識力が高まる低学年期に学習でのつまずきなどの課題を確認し、授業改善を行うといった、有効な手立てを早い段階から継続的に講じることができた。
また、日常の学習記録データと併せて分析し、調査結果をＡＩドリルと連携して活用することで、積み残しを解消するための個別指導や授業改善による確かな学力をはぐくむことが可能となる。

問い合わせ先　宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

宇治市立小学校保護者 様

宇治市統一学力調査（学びのステップアップ）

宇治市教育委員会

児童一人ひとりの学力状況等を把握・分析し、個別最適な学びの実現を図るための調査を実施します。

宇治市では、今年度から小学２、３年生を対象に学力調査を行います。

この調査は、現学年の10月末までの学習内容の調査を行うことで、定着の弱い学習内容について、児童や保護者のみなさんと学校が確認するために行います。調査結果をもとに、児童一人ひとりの弱点を補強する復習プリントやドリル形式の問題に取り組み、個別最適な学びの実現により主体的に学ぶ力を養うとともに次年度に向けてステップアップの目標を持たせることを目的としています。

この調査により、子どもたちの得意・苦手分野を把握し、苦手克服につながる学習に取り組み、次の学年に向けたさらなる意欲の向上につながることを期待しています。

個人票の返却

内容（単元）ごとの結果がわかり、自分の得意・苦手が把握できます。

教科ごとにアドバイスが書かれており、復習に役立てることができます。

※裏面には〇×のついた答案のスキャン画像が掲載されています。自分の回答が確認でき、振り返りをサポートします。

ミライシードドリルパーク とのデータ連携

学力調査の診断結果をもとに、一人ひとりの学習到達度に応じた苦手克服カリキュラムを自動で生成。苦手な問題に取り組んだ後には、確認テストを提示し、学習内容が定着したか再度診断することで、やり残しを防ぎます。

個別カリキュラム自動生成

理解度に応じた個別ドリルの提示

個別カリキュラム自動生成

・学習範囲の省力化、効率化
・習熟度別カリキュラム選定
（正答率と比較して、最適な問題を出題）

再診断のための確認テスト

個別カリキュラムの確認テスト

確認テスト自動生成

・個別カリキュラムを元にしたテストを実施。
間違えた場合は、更にふり返りを行う。
・テスト完了後、通常のドリルパークへ
誘導し、継続学習を支援

調査の内容

①対象学年　小学２、３年生

②実施教科　国語、算数

③出題範囲　当該学年の10月までに学習した内容
（例：小学３年生の問題は、小学３年生の10月までに学習した内容です。）

学力向上	**豊かな人間性の育成**	健やかな身体の育成
不登校児童生徒支援	インクルーシブ教育	食育の推進
学校・家庭・地域連携	その他	

宇治市

事業名

宇治学デジタル化事業

事業の経過・背景・課題

宇治市では、「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」という考え方に基づき、「総合的な学習の時間」を活用した「宇治学」を小学３年生から中学３年生まで実施している。

平成30年度に小学３年・６年用から副読本の発行を始め、令和元年には小学３年用から９年（中３）用までの副読本を発行し、3年または4年ごとに改訂を行っている。

令和２年度に一人一台タブレット端末の整備進み、タブレット端末で活用できるよう副読本のデジタル化を協議・検討してきた。

取組内容

交付実績額：　474　千円

・宇治市で独自に作成・発行している「宇治学」副読本を改訂に併せてデジタル化し、タブレット端末で活用できるようにすることで、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童生徒の宇治学での探究的な学びをより深いものにする

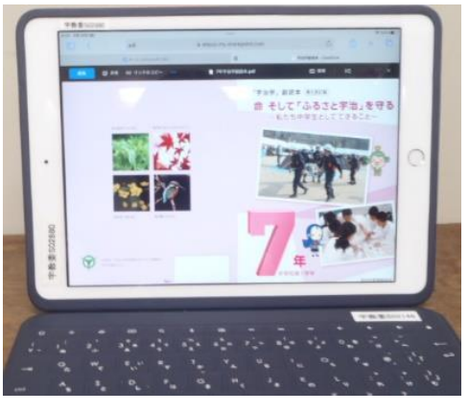
【実施スケジュール】

令和５年度：小学６年・７年(中１)用副読本を改訂に併せてデジタル化。令和６年度より活用。

令和６年度：小学３年・８年(中２)用副読本を改訂に併せてデジタル化。令和７年度より活用。

令和７年度：小学４年・５年・９年(中３)　用副読本を改訂に併せてデジタル化。令和８年度より活用。

※３年間で、改訂に併せて全学年デジタル化



事業の成果・今後の展望等

デジタル化した副読本の活用により、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながり、児童生徒の宇治学での探究的な学びがより深いものとなると考える。

令和５年度は、小学６年・７年(中１)用副読本を改訂に併せてデジタル化し、タブレット端末で活用できるようにした。引き続き改訂に併せて各学年の副読本をデジタル化し、活用していく。

問い合わせ先　宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	**インクルーシブ 教育**	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

宇治市

事業名

安心子育て支援事業

事業の経過・背景・課題

令和３年９月、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）が施行され、宇治市でも医療的ケアが必要な幼児児童生徒及びその家族への支援が必要となっている。

医療的ケア児及びその家族が、個々の医療的ケア児の心身の状況等に応じた適切な支援を受けられるようにすること、学校看護師の安定した確保・雇用が課題である。

取組内容

交付実績額：　1,923　千円

・福祉部局と連携し、医療的ケア児受入れに係る仕組みの構築、支援に係る程度区分認定制度の構築、
公立保育所・幼稚園、小・中学校での受入れ体制を確保し、学校看護師を配置

【実施スケジュール】
令和５年４月：該当校へ４名の学校看護師配置
※別途宿泊学習夜間対応のため派遣看護師を民間委託
11月：第１回医療的ケア児検討会議開催
→令和６年度受入れについて検討
（医療的ケア実施の可否、認定基準に基づく区分認定等について）
令和６年１月：第２回医療的ケア検討会議開催
→令和６年度学校看護師配置等について検討
京都府主催研修（医療的ケア児支援者養成研修）に参加
→受入れ校・園等の関係者が制度や取組内容について、理解を深めた

▶学校看護師オリエンテーション

事業の成果・今後の展望等

令和６年度においても、令和5年度に引き続き該当校に学校看護師を配置し、医療的ケア児への必要な医療行為を行うことにより、医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに、受入れ環境を確保していく。

問い合わせ先　宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

学力向上	豊かな 人間性の育成	**健やかな 身体の育成**
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

宇治市

事業名	アイススケートチャレンジ事業

事業の経過・背景・課題

全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果では、全国と同様に宇治市の小・中学生の体力は低下傾向にある。

市内にある府内唯一の通年型スケート場を活用し、アイススケート体験をとおして幅広くスポーツに触れられる機会を創出し、スポーツへの興味関心をもたせるとともに、生涯スポーツにつながる運動習慣の定着を図る。

取組内容

交付実績額：　1,258　千円

○「木下アカデミー京都アイスアリーナ」と連携して、府内唯一の通年型スケート場を活用し、市内小学生への多様な運動経験の機会を確保

・宇治市立小学校第４学年に在籍する全児童を対象とし、 約２時間のアイススケート体験を実施

・児童がスムーズに当日の体験ができるようにするため、講師派遣による事前学習を実施するとともに、トップ選手の練習見学会を実施

事業の成果・今後の展望等

体験実施前や実施後にも保護者とスケート場を訪れるケースがあり、当日の体験だけに終わらせることなく、アイススケート体験をきっかけに様々なスポーツに関心をもち、生涯スポーツにつなぐ機会とすることができた。

問い合わせ先	宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

宇治市

事業名

小・中学校ＩＣＴ授業アドバイザー設置事業

事業の経過・背景・課題

研修やＩＣＴ支援員配置等で、教職員のＩＣＴ操作技術や、教育とＩＣＴの関連に関する知識は向上する一方で、授業でのＩＣＴ活用頻度や教職員のＩＣＴ活用指導力において、全国平均や京都府平均と比べ低い状況にある。次なるステップとしてＩＣＴを効果的に活用して学びを深める授業への変革を目指す必要がある。

取組内容

交付実績額：　9,504　千円

・ＩＣＴを効果的に活用した子ども主体の授業への改善を図るため、ＩＣＴ授業アドバイザーを委嘱し、学校現場に応じたより実務的なＩＣＴ活用に関する提案・支援に加え、教員研修や研究の充実による教員の意識改革・人材育成に取り組む
・市立小中学校全32校を月2回訪問（担当校制）、毎月1回市教委と各学校のICT担当者の会議に出席
・教科書に合わせて、全学年のＩＣＴ活用事例を紹介するチラシを毎月作成し、全教職員に配布
・毎月、市教委や各学校のＩＣＴ担当教員とのＩＣＴ利活用推進会議に出席し、活用事例の紹介や、課題を共有し市内全体のＩＣＴ活用力を底上げ

【活用事例】
（授業前）教員とＩＣＴ授業アドバイザーが授業計画を確認し、ＩＣＴの使いどころを確認
（授業中）操作支援
（授業後）授業の振りかえりと授業を通した支援

事業の成果・今後の展望等

授業でのＩＣＴ活用頻度は、令和４年度と比較して上昇し、ＩＣＴ活用は日常的になってきている。また、児童生徒へのタブレット端末利活用に関するアンケート調査（令和5年12月実施）でも、タブレット端末を使うと授業が分かりやすい（85.6%）、学習に集中できる（80.9%）と肯定的に回答している他、家庭にタブレット端末を持ち帰り、宿題以外に、調べ学習やタイピングの練習、デジタルドリルで予習・復習に自ら取り組むなど、児童生徒が主体的に学習しており、ＩＣＴの特性を活かした学習活動の充実につながっている。

ＩＣＴの強みを生かした学習活動は充実している一方で、子どもたちが考えをまとめ・表現する場面でのＩＣＴ活用には課題があるため、ＩＣＴをより効果的に活用するための授業支援に加え、研修や研究の充実も図りながら教科の学びを深める授業改善に取り組み、子どもたちの学びを個別に最適化し、創造性を育む学びへの変革を目指す。

問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

宇治市

事業名

不登校児童別室対応支援員配置事業

事業の経過・背景・課題

宇治市における不登校児童生徒数は、増加傾向にあり、平成24年度を境に9年連続増加し、令和４年度は過去最多となったことや、小学校の別室において、常駐できる教職員が少ないことなどに課題がある。

また、別室に通う児童生徒にとっても、担当者が日々変わることは不安につながり、別室に通いにくい状況を作り出すことが懸念される。

«令和４年度宇治市の不登校状況»

小学校：130人　（男子：65人、女子：65人）

取組内容

交付実績額：　1,091　千円

・登校はできるものの、教室に入ることが難しい児童に、学びの場の選択肢を広げるため、小学校５校の別室に不登校児童に対応する担当支援員を配置し、校内におけるもう一つの居場所を確保
・継続的に別室を利用することで、物理的・心理的な負担を軽減し、通常学級への復帰につなげる

【実施スケジュール】
令和５年10月～：随時支援員を配置
　　別室開室
令和６年３月　：配置校から教育委員会への別室の状況について報告

事業の成果・今後の展望等

学校に登校できなかった11名が新たに別室へ登校できるようになり、５校全体で14名が別室登校するようになった。また、その内６名は所属学級へ入ることができた。

本事業により効果検証を行い、令和６年度については令和５年度に支援員を配置した５校を継続したうえで、新たに５校へ支援員を増配置することにより、小学校１０校で不登校児童への支援を充実させる。

問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）